



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日
上場取引所 東

上場会社名 生化学工業株式会社
コード番号 4548 URL <https://www.seikagaku.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水谷 建
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 杉山 大輔 TEL 03-5220-8950
四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切り捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	26,162	△7.0	3,407	△45.4	4,218	△38.9	3,628	△32.4
2022年3月期第3四半期	28,145	37.0	6,234	283.7	6,905	231.5	5,364	188.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 6,471百万円 (5.0%) 2022年3月期第3四半期 6,164百万円 (235.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	65.42	—
2022年3月期第3四半期	95.25	—

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	76,636	69,767	91.0
2022年3月期	75,244	66,340	88.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 69,767百万円 2022年3月期 66,340百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2023年3月期	—	13.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,500	△3.9	1,700	△62.2	2,900	△46.2	2,650	△29.0	48.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注)詳細は、『添付資料』P.8「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注)詳細は、『添付資料』P.8「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	56,814,093株	2022年3月期	56,814,093株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,273,029株	2022年3月期	567,822株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	55,468,720株	2022年3月期3Q	56,317,323株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、2023年2月8日より当社ウェブサイトに掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(3) 研究開発活動	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）の売上高は、LAL事業の伸長があった一方、ロイヤリティーの大幅な減少や国内における薬価引き下げの影響により医薬品事業が減収となり、前年同期と比べ7.0%減の26,162百万円となりました。

営業利益は、米国で実施中の腰椎椎間板ヘルニア治療剤SI-6603追加臨床試験の被験者組み入れが完了したことに伴い研究開発費が減少しましたが、減収の影響により45.4%減の3,407百万円となりました。円安に伴う為替差益の計上により減益幅が縮小し、経常利益は38.9%減の4,218百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、32.4%減の3,628百万円となりました。

セグメント別の売上概況

<医薬品事業>

・国内医薬品（8,850百万円、前年同期比3.5%減）

関節機能改善剤アルツは、競合品からの切り替え施策が奏功し、医療機関納入本数は増加しました。当社売上高は、出荷時期の影響により出荷数量が増加しましたが、薬価引き下げの影響を受け減少しました。

2021年5月19日に販売を開始した関節機能改善剤ジョイクルは、前年同期より販売期間が長いことから当社売上高は増加しました。なお、本剤については、添付文書の「重大な副作用」の項にてショック、アナフィラキシーに係る注意喚起を行っていましたが、本剤の投与後にショック、アナフィラキシーの発現が複数報告されたことから、医療関係者の方々にさらなる周知を実施するために、2021年6月1日に安全性速報（ブルーレター）を発出しました。引き続き、販売提携先である小野薬品工業株式会社と連携し、副作用報告等の情報収集や安全性に関する情報提供を積極的に進めています。また、専門家や医療機関等の協力を得ながら、2022年4月より原因究明に向けた臨床研究を実施しています。

眼科手術補助剤オベガン類は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の市場の成長基調に戻りつつあることから、医療機関納入本数は増加しました。当社売上高は、薬価引き下げの影響はあったものの出荷数量増に伴い増加しました。

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、前年同期に出荷が多かった反動に加え、保険償還価格改定の影響により、当社売上高は減少しました。

腰椎椎間板ヘルニア治療剤ヘルニコアの医療機関納入本数は前年同期並みとなりましたが、当社売上高は出荷時期の影響により増加しました。

・海外医薬品（6,922百万円、同2.7%増）

米国における単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンは、2022年7月に行われた保険償還制度変更の影響により、現地販売本数は減少しました。当社売上高は、円安により大幅に増加しました。

5回投与の関節機能改善剤スパルツFXは、少数回投与製品が選好される傾向により厳しい環境が継続していますが、現地販売本数は微増となりました。当社売上高は、円安効果があったものの出荷時期の影響により前年同期並みとなりました。

中国向けアルツは、新型コロナウイルス感染症の再拡大による外来受診制限等の影響で、現地販売本数は大幅に減少しました。当社売上高は、包装資材変更に伴い第1四半期の出荷が無かったことから、大幅に減少しました。なお、2022年8月から出荷を再開しています。

・医薬品原体・医薬品受託製造（2,178百万円、同11.5%増）

医薬品原体は前年同期並みとなりましたが、海外子会社ダルトン ケミカル ラボラトリーズ インクの医薬品受託製造等は円安により増加しました。

これらに加え、ロイヤリティー（1百万円、同100.0%減）の大幅な減少により、医薬品事業の売上高は17,953百万円（同16.2%減）となりました。

< L A L 事業 >

海外子会社アソシエーツ オブ ケープ コッド インクの円安効果や国内販売の堅調な推移により、売上高は8,209百万円（同22.1%増）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期において、利益面がすでに2022年11月8日に公表しました連結業績予想に達していますが、第4四半期において海外子会社における受託試験サービスの売上高の減少を見込むことに加え、研究開発費が集中することや燃料費の高騰による費用の増加、並びに半導体不足等に伴い工場の定期メンテナンス等が集中することにより、同連結業績予想の変更はありません。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(3) 研究開発活動

当社グループは、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献するために、専門分野とする糖質科学に特化して、独創的な医薬品等の創製を目指しています。

今後の事業成長の鍵を握る新薬の早期かつ継続的な上市を実現するために、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な活動を推進するとともに、独自の創薬技術の強化やオープンイノベーションの活用によりプロジェクト数の拡充を図っていきます。

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、5,355百万円、対売上高比率（ロイヤリティー除く）は、20.5%となりました。

研究開発活動の主な進捗状況は、以下のとおりです。

・SI-614（ドライアイ治療剤、開発地域：米国）

2022年5月より実施している第Ⅲ相臨床試験の被験者組み入れが、2023年2月に完了しました。本試験は有効性と安全性の評価を目的としています。現在実施している試験のデータ取得後に販売提携先の選定、2つ目の第Ⅲ相臨床試験及び長期投与試験の実施を予定しています。

SI-614は、当社独自の技術を活用してヒアルロン酸に疎水基を導入した両親媒性高分子の物質であり、同剤を点眼することで涙液層安定化作用と創傷角膜治癒促進作用によりドライアイの諸症状を改善することが期待されます。SI-614の開発を通じ、ドライアイ治療の新たな選択肢を提供することを目指します。

その他の研究開発活動については、重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,518	21,967
受取手形	49	67
売掛金	5,983	8,188
有価証券	10,657	7,161
商品及び製品	2,568	2,689
仕掛品	2,610	2,726
原材料及び貯蔵品	3,408	3,710
その他	1,997	1,922
貸倒引当金	△167	△75
流動資産合計	48,625	48,357
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,718	20,603
減価償却累計額	△14,305	△14,950
建物及び構築物（純額）	5,412	5,652
機械装置及び運搬具	21,468	22,867
減価償却累計額	△19,927	△20,932
機械装置及び運搬具（純額）	1,540	1,935
土地	1,025	1,102
リース資産	75	98
減価償却累計額	△23	△32
リース資産（純額）	52	66
建設仮勘定	1,524	1,846
その他	5,377	5,571
減価償却累計額	△4,911	△4,956
その他（純額）	465	614
有形固定資産合計	10,021	11,216
無形固定資産		
のれん	2,093	2,310
その他	832	1,221
無形固定資産合計	2,926	3,531
投資その他の資産		
投資有価証券	12,733	12,405
退職給付に係る資産	617	816
繰延税金資産	69	37
その他	257	278
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	13,670	13,530
固定資産合計	26,618	28,278
資産合計	75,244	76,636

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	680	956
短期借入金	300	300
リース債務	35	37
未払金	3,458	2,075
未払法人税等	308	8
賞与引当金	654	304
環境対策引当金	105	122
その他	1,991	1,611
流動負債合計	7,533	5,416
固定負債		
リース債務	58	56
繰延税金負債	1,168	1,252
資産除去債務	36	36
その他	106	106
固定負債合計	1,370	1,452
負債合計	8,904	6,869
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,840	3,840
資本剰余金	5,301	5,301
利益剰余金	53,305	55,367
自己株式	△802	△2,279
株主資本合計	61,645	62,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,212	2,913
繰延ヘッジ損益	△102	△15
為替換算調整勘定	1,251	4,235
退職給付に係る調整累計額	333	404
その他の包括利益累計額合計	4,694	7,537
純資産合計	66,340	69,767
負債純資産合計	75,244	76,636

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	28,145	26,162
売上原価	10,998	11,552
売上総利益	17,147	14,610
販売費及び一般管理費		
人件費	2,069	2,281
賞与引当金繰入額	87	88
退職給付費用	75	86
研究開発費	5,855	5,355
その他	2,824	3,392
販売費及び一般管理費合計	10,913	11,203
営業利益	6,234	3,407
営業外収益		
受取利息	21	27
受取配当金	312	328
為替差益	185	396
投資有価証券売却益	84	3
その他	84	65
営業外収益合計	688	822
営業外費用		
支払利息	9	4
支払手数料	3	4
その他	4	1
営業外費用合計	17	10
経常利益	6,905	4,218
税金等調整前四半期純利益	6,905	4,218
法人税、住民税及び事業税	1,480	560
法人税等調整額	60	29
法人税等合計	1,541	589
四半期純利益	5,364	3,628
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,364	3,628

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）
四半期純利益	5,364	3,628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△114	△299
繰延ヘッジ損益	4	87
為替換算調整勘定	936	2,984
退職給付に係る調整額	△26	70
その他の包括利益合計	799	2,842
四半期包括利益	6,164	6,471
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,164	6,471
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果等により、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,705,207株、1,477百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が2,279百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、見積実効税率に係る法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含まれております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これにより、四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	9,173	—	9,173	—	9,173
海外医薬品	6,743	—	6,743	—	6,743
医薬品原体・医薬品受託製造	1,952	—	1,952	—	1,952
ロイヤリティー	3,550	—	3,550	—	3,550
L A L	—	6,725	6,725	—	6,725
顧客との契約から生じる収益	21,420	6,725	28,145	—	28,145
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	21,420	6,725	28,145	—	28,145
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	21,420	6,725	28,145	—	28,145
セグメント利益	4,381	1,852	6,234	—	6,234

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	8,850	—	8,850	—	8,850
海外医薬品	6,922	—	6,922	—	6,922
医薬品原体・医薬品受託製造	2,178	—	2,178	—	2,178
ロイヤリティー	1	—	1	—	1
L A L	—	8,209	8,209	—	8,209
顧客との契約から生じる収益	17,953	8,209	26,162	—	26,162
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,953	8,209	26,162	—	26,162
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	17,953	8,209	26,162	—	26,162
セグメント利益	1,395	2,011	3,407	—	3,407

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。